

ムクドリ被害による対応について

○現 大宮国道事務所 浦和出張所 佐々木 和馬
前 甲府河川国道事務所 工務第二課 野上 誠一郎

1. はじめに

ムクドリとはスズメ目ムクドリ科に属し、全長約25cm程度の野鳥で、日本のほぼ全域に生息している。繁殖期は春から夏で、木の穴や人家の軒先などの穴に巣を造って生活しているが、繁殖期が終わると6月頃から徐々に街路樹などに飛来し群れを形成して、数千羽から数万羽の大きな集団で「ねぐら」を造って生活している。近年、市街地の街路樹を「ねぐら」とすることによる、ムクドリの鳴き声による騒音や糞などの被害が社会問題となっている。

2. 浦和出張所におけるムクドリ被害の実態

浦和出張所管内においても、数年前から毎年飛来し、街路樹を「ねぐら」とするようになり、ムクドリの鳴き声による騒音や糞などの被害が問題となっている。

2. 1 周辺地域の方々からの相談内容

- ・ムクドリの「ねぐら」となっており糞害と騒音で困っている。
- ・毎年ムクドリの騒音に悩まされている。何とかしてほしい。
- ・ムクドリの糞や羽が店舗内に入ってきて困っている。

その結果、

- ・街路樹を伐採してほしい。
- ・街路樹を剪定してほしい。
- ・街路樹（高木）が撤去出来ないなら中木などに植え替えるなど対応してほしい。

といったムクドリ被害による相談が相次ぎ、被害対応・対策の矛先が「ねぐら」となっている街路樹の管理者へ向けられ、管理者に対する強い要望・意見となり、被害の解決を求められる状況となっている。

2. 2 被害① 国道17号BP さいたま市中央区

当該箇所は国道沿線に街路樹が立ち並ぶ箇所であり、夕方頃になるとムクドリが「ねぐら」となる街路樹周辺に戻ってきて、鳴き声による騒音や糞害が毎日続いている状況であったことから、周辺地域の方々から、ムクドリ被害に対する強い要望があった。



写真－1 周辺のムクドリ飛来状況



写真－2 糞害及び羽の飛散状況

2. 2. 1 被害エリアの特徴

当該箇所においてムクドリが「ねぐら」としている箇所には、以下のような特徴が挙げられる。

- ・民地側（店舗側）の照明及び看板が明るいこと。

- ・明るい箇所に「ねぐら」となる繁茂した街路樹があること。（身を隠せる）



写真－3 民地側からの照明状況

2. 2. 2 ムクドリ対策

ムクドリの「ねぐら」となっている、明るい場所で繁茂した街路樹について、ケヤキの強剪定を実施した。

強剪定実施後、ムクドリはほとんどいなくなり、心配されていた強剪定を実施していない周辺のケヤキに移ることもなかった。



写真－4 強剪定前（H30.9.5撮影）



写真－5 強剪定後（H30.9.6撮影）

2. 3 被害② 国道17号BP さいたま市桜区

当該箇所も被害①の箇所と同様に国道沿線に街路樹が立ち並んでおり、夕方頃になるとムクドリが「ねぐら」となる街路樹周辺に戻ってくる状況が続いていた。

2. 3. 1 被害エリアの特徴

当該箇所においてムクドリが「ねぐら」としている箇所には、以下のような特徴が挙げられる。

- ・民地側（店舗側）の照明及び看板が明るいこと。
- ・明るい箇所に「ねぐら」となる繁茂した街路樹があること。（身を隠せる）



写真－6 民地側の照明状況

2. 3. 2 ムクドリ対策

当該箇所においてムクドリの「ねぐら」となっている街路樹を職員により剪定およびムクドリの追い払いを実施した。作業を1週間程度続けたところ、一時的ではあるがムクドリがいなくなる状況が確認された。

3. ムクドリに関する考察

3. 1 被害2箇所における共通点

- ・民地側（店舗等）の照明及び看板が明るいこと。
- ・明るい箇所に「ねぐら」となる繁茂した街路樹があること。（身を隠せる）
- ・周辺が暗い箇所の繁茂した街路樹には「ねぐら」は造らない。

3. 2 ムクドリの習性・特徴

- ・市街地の明るい箇所で天敵から身を隠せる場所（街路樹等）を好み、「ねぐら」としている。実際に、被害①の付近には公園があり多くの樹木があるが、夜間は真っ暗となるためか、ムクドリが「ねぐら」としているような状況は確認されなかった。
- ・強剪定を行った街路樹には寄りつかなくなったことから、身を隠せないようになるため、寄りつかなくなったと考えられる。

4. 関係自治体とのムクドリ被害の情報共有

今回のムクドリ被害にあたり、自治体と被害内容についての情報共有及び意見交換を実施し、ムクドリ対策状況の情報交換や地域一体による取り組みの可能性について確認した。

5. 関係自治体による取り組み事例紹介

今回、ムクドリ被害における情報交換を実施したさいたま市では、以前は「ねぐら」となる街路樹の強剪定を実施していたが、ムクドリ被害のある3駅について対策として防除装置を設置している。この装置はスピーカから80dBの異音を発生させ、ムクドリを追い払うもので、駅前などに33台設置。ムクドリの数は設置前より7～8割程度減ったが、100%効果が出ているわけではない。また、装置から発生する音に対する苦情もあるなど対応に苦慮している状況である。



写真-7 防除装置の設置状況

6. まとめ

ムクドリ被害による今回の対応の取り組みや今後の方針について、以下にまとめる。

6. 1 強剪定の実施

街路樹の強剪定については、効果的で即効性が確認された。ただし、街路樹そのものの必要性を否定することにも繋がる恐れがあるため、実施には注意が必要である。

6. 2 地域一帯による取り組みの重要性

ムクドリ対策を実施する場合における効果を高めるため、地域一帯となって対策を実施することが重要であり、そのため、関係自治体とムクドリ飛来の情報提供やムクドリ対策の情報交換を行いながら取り組んでいく。

6. 3 大集団にさせないために

ムクドリが飛来した直後に少数の群れのうちに追い払いを実施する。大集団になると、ムクドリ被害が大きくなり、ムクドリ対策にも相当な費用を要することにも繋がるため、少数の群れのうちに追い払いを実施し、定着させないことと大集団にさせないことが重要である。

6. 4 周辺店舗の理解

ムクドリの特徴で、明るい箇所によってくる習性があるため、夕方の一部の時間帯だけでも、店舗照明及び看板の点灯時間について協力いただければ、より効果的である。

今後は、ムクドリの習性及び特徴などを踏まえ、他の街路樹の状況等に注視しつつ、関係自治体との連携を図り、周辺店舗等にも理解を求めながらムクドリ対策を実施していきたい。